

2008年3月25日理事会承認

2008年度 事業計画書



学校法人 桃山学院

目 次

・理事長メッセージ.....	2
I 設置する学校・学部・学科・入学定員等.....	3
1. 桃山学院大学大学院	
2. 桃山学院大学大学	
3. 桃山学院高等学校	
4. 桃山学院中学校	
II 在校学生・学生数.....	3～4
1. 桃山学院大学大学院	
2. 桃山学院大学大学	
3. 桃山学院高等学校	
4. 桃山学院中学校	
III 役員・評議員・教職員数.....	4
(1) 役員	
(2) 評議員	
(3) 教員	
(4) 職員	
IV 所管別の主な業務計画	
1. 法人.....	5～6
〔重点目標〕	
〔事業計画〕	
(1) 中長期ビジョン関係	
(2) 財務関係	
(3) 人事・組織関係	
(4) 施設・設備関係	
(5) 学院創立125周年・大学開学50周年記念事業関係	
2. 大学.....	7～10
〔重点目標〕	
〔事業計画〕	
(1) 教学関係	
(2) 学生生活関係	
(3) 国際交流関係	
(4) 就職関係	
(5) 入試関係	
(6) 広報関係	
(7) 研究・情報関係	
(8) その他の業務関係	
3. 高等学校.....	11
〔重点目標〕	
〔事業計画〕	
(1) 教学関係	
(2) 課外活動関係	
(3) 国際交流関係	
(4) 進路関係	
(5) 入試関係	
(6) 広報関係	
(7) 施設・設備関係	
3. 中学校.....	12
〔重点目標〕	
〔事業計画〕	
(1) 教学関係	
(2) 入試関係	
(3) 広報関係	
(4) 施設・設備関係	

理事長メッセージ 一地域に根ざし、世界にはばたく

理事長 坪井 清

2008年度 事業計画策定にあたって

2007年1月、本学院は2009年度に迎える「学院創立125周年・大学開学50周年」のための記念事業を決定いたしました。この大きな節目を目前にした本学院の財政状況は、ストック面では一応の良好状態にあるといえますが、フロー面では2007年度予算でも明らかなように、大学における臨時定員増時代の終息が多大な影響を与えています。

このような財政状況を少しでも改善すべく2008年度4月からは、大学において従来の文学部を国際教養学部へ改組転換し、入学定員も60名増加することといたしました。しかしながら、高校での志願者数は増加しているものの、昨今の志願者数減少および大学での第三者認証評価による定員超過率の是正とによって、一段と厳しい財政環境にあることには違いありません。よって、収支バランス上からは、教学条件の維持向上を図りつつ、諸経費の一層の節減・圧縮に取り組むことが求められることになりました。

この状況の中、2008年度は、学院創立125周年・大学開学50周年記念事業の一環として実施する和泉キャンパスでの「総合教育棟（仮称）」建設および、昭和町キャンパスでの「第二体育館（仮称）」の建設など例年になく多額の設備投資が見込まれるため、計画的な資産の維持・取得は特定資産取り崩しによって賄うとした予算編成方針を定め、収支均衡に向け鋭意努力いたしました。結果として一時的経営政策投資は避けられず、支出超過予算に至る事業計画となりました。

この一時的な経営政策投資は、2005年に策定した本学院の中長期を展望する「桃山学院中長期ビジョン」、情報インフラ整備、戦略広報など重点課題の推進に加え、先に挙げた2009年度の「学院創立125周年・大学開学50周年」に向けた各種記念事業の実施です。その記念事業の大きな柱の一つとして、2008年4月に中高6年一貫教育を掲げた「桃山学院中学校」を開校いたします。中学校設置の成否は、何よりもこれからの教職員の努力にかかっているとはいえますが、必ずや成功し、本学院の発展に寄与してくれるものと信じています。また、大学においては現在、学部学科の改組転換等を模索している段階にあります。これも今後順次、具現化されるものと考えております。

社会は桃山学院の将来に大きな課題を提示するとともに、果敢な挑戦を促しています。本学院としては、学院内各学校の永続性を担保し、かつこれらの教育・研究活動の環境整備を行うに適切な財政対応が望まれる時期にあると認識し、支出超過予算に至るもやむなしとして2008年度の事業計画を策定した次第です。

私学を取り巻く厳しい環境のもと、本学院のさらなる発展と中長期ビジョンに掲げた使命達成のため、理事会と教学が一体となって努力してまいりますので、皆様の一層のご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

以上

I 設置する学校・学部・学科・入学定員等 (数字は入学定員)

1. 桃山学院大学大学院

研究科名	博士前期課程(名)	博士後期課程(名)
文学研究科	16	4
社会学研究科	10	3
経済学研究科	10	3
経営学研究科	30	3
計	66	13

2. 桃山学院大学

学部名	学科名	入学定員(名)	編入学定員(名)
文学部	英語英米文学科	0	20
	国際文化学科	0	20
国際教養学部	国際教養学科	270	0
社会学部	社会学科	250	20
	社会福祉学科	100	0
法学部	法律学科	200	0
経済学部	経済学科	350	20
経営学部	経営学科	265	30
計		1,435	110

3. 桃山学院高等学校

・全日制普通科

コース名	定員(名)	
S英数コース	40	男子・女子
英数コース	120	男子・女子
標準コース	280	男子[アスリートクラス(専願・男子40名含む)]
国際コース	80	男子・女子[クラスA(短期留学)40名・クラスB(長期留学)40名]
計	520	

4. 桃山学院中学校

コース名	定員(名)	
6年選抜コース	40	男子・女子
6年進学コース	80	男子・女子
計	120	

II 在校学生・生徒数 (2008年4月1日見込み)

1. 桃山学院大学大学院

大学院	春学期	秋学期
	129	127

※2008年度予算積算基礎より

2. 桃山学院大学

大学		春学期	秋学期
学部	1回生	1,773	1,738
	2回生	1,547	1,528
	3回生	1,653	1,637
	4回生	1,632	1,625
	5回生以上	240	154
	通年	6,763	
計	6,845	6,682	

※2008年度予算積算基礎より

3. 桃山学院高等学校

1 年 生	5 2 4
2 年 生	6 5 0
3 年 生	5 4 0
計	1, 7 1 4

※2008年度予算積算基礎より

4. 桃山学院中学校

1 年 生	1 2 0
2 年 生	-
3 年 生	-
計	1 2 0

※2008年度予算積算基礎より

Ⅲ 役員・評議員・教職員数 (2008年4月1日予定)

(1) 役員 理事 16名 (うち、理事長1名、常務理事6名)
 監事 3名

(2) 評議員 35名

(3) 教員 549名 (うち、専任235名、兼任314名)

大 学	教 授	准教授	講 師	契 約	合計	チャブレン	兼任講師
国際教養学部	24	6	2	5	37	1	251
社会学部	16	9	3	0	28		
法学部	14	3	2	0	19		
経済学部	21	13	2	0	36		
経営学部	25	4	1	0	30		
合 計	100	35	10	5	150		

中学校・高等学校	教諭(*1)	期付教諭(*2)	合計	派遣	兼任講師
(人数)	72	12	84	1	62

*1: 特任教諭およびチャブレン含む

*2: 英語科契約教員含む

(4) 職員 246名

所管	専任	嘱託	契約	派遣	パートアルバイト	合計
法 人	6	0	1	0	2	9
大 学	116	1	7	32	60	216
高 校	7	0	0	4	10	21

IV 所管別の主な事業計画

1. 法人

[重点目標]

- (1) 学院中長期ビジョンの推進と、それに伴う中期経営計画の策定と実施
 - ① 学院経営改善の検討と推進
 - ② 和泉キャンパス「施設改修5ヵ年計画」の推進（5年目）
 - ③ 学院創立125周年・大学開学50周年記念事業の推進
 - 1) 寄付金の募集
 - 2) 建設実施
 - 3) その他の準備（年史等の刊行、記念式典）
- (2) 各種「引当特定資産」の充実と効率的運用
 - ① 「将来構想資金引当資産」の活用と充実・補填
「第2号基本金引当資産」的要素をも内包する当該資産による中長期ビジョン推進案件への資金的対応
 - ② 「退職給与引当資産」の充実（退職給与引当金期末残高の100%確保の維持）
 - ③ 「減価償却引当資産」の充実（期末減価償却累計額の50%以上の確保）
 - ④ 各種引当特定資産の効率的運用による安定財源の確保
- (3) 諸課題への対応と推進
 - ① 昭和町キャンパス「C館」活用問題への取り組み
 - ② 昭和町キャンパス「D館」跡地活用計画の推進
 - ③ 各種訴訟・公判への対応

[事業計画]

- (1) 中長期ビジョン関係
 - ・ 取組計画のローリング（評価・改善および新たな提案）を実施する。
 - ・ 大学における改組転換・新学部・新学科構想の提案を推進する。教育の充実と社会的評価の向上策を検討する。
 - ・ 各設置校の今後の具体的収容計画および人件費等の経費削減策を含めた中長期ビジョンにもとづく中期経営計画を策定する。
 - ・ 第三者評価への対応をはかる。（課題となったものは、全学の意思統一を図り、早期に実施する。）
 - ・ 情報インフラの中長期展望を図る。
 - ・ 寄附行為および規程等の見直しを図る。（法令順守に基づく執行）
- (2) 財務関係
 - ・ 財政基盤の強化のため、施設設備の維持再生資金である減価償却引当資産について、「期末減価償却累計額の少なくとも50%以上は確保する」という理事会決定に基づき当該引当資産への繰入れを行なう。また、奨学資金引当資産や第3号基本金引当資産（国際基金）についてもそれぞれ積み増し（新規繰入）を行ない、当該資産の整備・拡充につとめる。
 - ・ 財政基盤の安定・強化にむけて、中長期的な視点に立つ設備投資計画などを盛り込んだ中期経営計画を策定する。
- (3) 人事・組織関係
 - ・ 専任教員採用については、既定の採用計画により実施する。

- ・事務職員採用については、原則として「職員人員計画」により実施する。
- ・兼任講師、臨時職員等の採用については、必要最小限にて実施する。
- ・中長期ビジョンに掲げている組織関連規程の整備、法人管理運営体制の整備・強化等の組織基盤整備に取り組んでいく。
- ・中長期ビジョンに基づき、人事諸制度についての検討・策定を経て、導入実施を行えるように努める。

(4) 施設・設備関係

<和泉キャンパス総合教育棟(仮称)建設>

- ・大学開学50周年記念事業および中長期ビジョンのさらなる推進事業として、和泉キャンパスの第一駐車場北側に大学での活動拠点施設として、総合教育棟（地上3階：延べ床面積4,093.47㎡）を建設（2009年3月竣工予定）する。この施設は1階に「キャリアセンター事務室」、2階に「国際センター事務室」「国際交流室」「外国語教育センター」、3階に「語学教室11室」を配し、国際交流の多様化と拡大を支え、また、キャリア形成支援など大学教育改善に資する機能を保有するものである。

<昭和町キャンパス第二体育館(仮称)建設>

- ・学院創立125周年記念事業および中長期ビジョンのさらなる推進事業として、高等学校におけるスポーツ活動の充実を図るため、昭和町キャンパスのグラウンド南側に第二体育館（地上2階、地下1階：延べ床面積4,595.43㎡）を建設（2009年3月竣工予定）する。主な内容は、地下1階に「サブアリーナ」、1階に「体育教官室」「トレーニングルーム」、2階に「メインアリーナ」を配したものである。更にD館を解体し、「テニスコート」1面を設置する。なお現体育館についても、リニューアルし活用して行く予定である。

<和泉キャンパス施設設備の維持管理>

- ・2007年度に引き続き、和泉キャンパス施設について年次計画に基づき補修等を行い、安定的な維持・管理につとめる（5ヵ年計画の5年目）。

<昭和町キャンパス整備>

- ・昭和町キャンパスについてもカンタベリー館などの既存施設の改修等の整備を行い、その有効活用をはかる。

(5) 学院創立125周年・大学開学50周年記念事業関係

- ・2007年1月開催の理事会・評議員会において承認された「学院創立125周年・大学開学50周年記念事業」について、計画どおり推進していく。

<事業計画における>

1. 新たな基金（社会貢献基金）の創設については、2008年度中に設立し、2010年度より運用する。
2. 新たな教育の展開については、大学においてさらに学部・学科の改組転換、新学部の設置構想を検討する。高等学校においては、2008年度開設した中学校を全体の活性化に資するものとするとともに特色ある教育を推進する。
3. 新たな拠点の整備については、2008年度、和泉キャンパスにおいては大学50周年記念館（総合教育棟）を建設する。昭和町キャンパスにおいては第二体育館を建設する。また、中学校棟完成にともなう環境整備や現体育館のリニューアル等、昭和町キャンパス全体の整備を推進する。

同時に寄付金募集については、2008年度の2億円目標を達成すべく鋭意努力する。

また、桃山フェスタ（プレ50周年フェスタ）、桃山学院フェア、記念講演会やクリスマス関連イベント等記念行事、イベントを実施するとともに、2009年度の記念式典の準備を進めていく。

2. 大学

〔重点目標〕

(1) 教育研究計画

- ① 中・長期計画の推進および継続検討
- ② 国際教養学部の充実・発展
- ③ 各学部学科における特色ある教育の推進
- ④ 特色G P、現代G P等に対する取り組み
- ⑤ 第三者評価に対する対応の検討・実施
- ⑥ 大学院の整備・充実
- ⑦ S A I N T I Vの運用、S A I N T Vの構築検討
- ⑧ 情報教育の充実
- ⑨ 入試制度の検討
- ⑩ 国際交流の充実と外国人留学生の受け入れ体制の整備
- ⑪ 外国語教育の充実
- ⑫ キャリア教育の充実
- ⑬ 桃山学院高等学校および地域重点高校との連携強化
- ⑭ 南大阪地域大学コンソーシアムおよび他大学との連携強化
- ⑮ 産官学連携の強化
- ⑯ 地域社会との連携強化

(2) その他の業務計画

- ① 学生生活における支援体制の整備
- ② キャリア形成および就職活動への支援強化
- ③ 広報活動の充実
- ④ 事務システムのオープン化および学内外情報流通の推進
- ⑤ 卒業生および校友団体との連携強化
- ⑥ エクステンション活動の充実と推進
- ⑦ 委員会組織の再検討
- ⑧ 研究支援体制の整備

〔事業計画〕

(1) 教学関係

- ・経済学部関係では、大学院博士前期課程の各コース教育内容の充実、研究科ホームページ充実、大学院生研究室の整備、学部ホームページやデータベースの充実等情報基盤の整備、中国ビジネスキャリアコースの運営推進、将来構想の検討、経済学検定試験（E R E）の受験促進を行う。
- ・社会学部関係では、大学院研究科の活性化、大学院生研究室の整備、社会調査教育（社会調査士）の強化、社会福祉実習室の充実、F D活動やホームページの充実等学部教育・研究体制の強化、社会福祉学科独自の新生オリエンテーション実施、社会学科新生対象パンフレット作成を行う。
- ・経営学部関係では、学部教育拡充のプロジェクト（会計プロフェッショナル育成、国際交流・英語教育改革等）および将来計画プロジェクトの推進、実務家による特別講義等実施、英語による授業の複数開講、基礎学力の確保・増強の取り組み、大学院の特色ある特別講義実施、大学院生研究室の整備、学部および研究科ホームページの充実を行う。
- ・国際教養学部関係では、英語教育の一層の充実・強化、日本語教員資格コースの運営、学部・研究科運営の強化、学部広報活動の充実・強化、ホームページ更新等広報活動の充実・強化、

学部・研究科FD活動の充実を行う。

- ・法学部関係では、FD活動等学部運営の強化、法職インターンシップの充実、各種検定試験等（法学検定試験、ビジネス実務法務検定試験、法科大学院適性試験講座、法職基礎対策講座）の受験・受講促進、大学院設置等の将来構想検討、TA制度の充実、学部広報活動の充実を行う。

(2) 学生生活関係

- ・学生のための大学運営を目的に、継続して運営評価アンケートを実施し、学生サービスの改善を図る。
- ・中長期ビジョンの推進として、「特別スポーツ強化」として社会から注目度の高い複数の「チームスポーツ（サッカー・アメリカンフットボール）」種目を、常に全国大会レベルで競技し得ることを目標に特別に強化し、その活躍を通して学生の本学への帰属意識の向上をはかる。また広く社会に本学の活気ある姿をアピールする。また、キャンパスコミュニティ形成支援を進める。
- ・マナー向上キャンペーンを実施するとともに学生生活の安全対策を図る。
- ・学生相談運営委員会を中心として、学生相談室、各窓口でのインターカーによる学生相談の充実をはかる。
- ・学生の福利厚生では、奨学金・学研災保険などをより充実させるため点検を行う。また、入学後に優秀な学業成績を修めている学生への奨励支援策として、新たに「成績優秀者奨励奨学金」を創設し、学生への就学支援の一層の強化をはかる。
- ・2007年度は、障害学生に関するインテーク相談窓口（ノートテイク関連業務）を暫定的に設けたが、2008年度より当面「障害学生支援窓口（仮称）」として設置し、窓口対応と、組織横断的なコーディネートを行う。
- ・正課外活動支援（学生団体活動支援・大学祭実施支援・プレ50フェスタ・公認団体リーダートレーニング実施）のほか、フレッシュヤーズキャンプ実施、学生表彰、正課外活動報奨金（St. Andrew's Challenge-Ship制度）、正課外活動顕彰制度、ボランティアビューロー支援等の充実を図る。
- ・キャリア形成支援を、キャリアセンター・ボランティアビューローと連携し進める。
- ・麻疹の抗体検査を定期健康診断時に大学負担で実施し、麻疹感染の予防に努める。

(3) 国際交流関係

- ・新規協定校の開拓を継続し、5～10大学と新規協定を締結する。（現在52校）
- ・多様な国籍の交換留学生を、70名を目標に受け入れ、本学学生との交流の場を設ける。
- ・正規留学生の受け入れについては入学選抜をより厳選化し、優秀な正規留学生の確保を目指す。
- ・TOEFL対策講座、英語リメディアル講座、留学対策講座等を設置し、長期派遣留学生数の拡大を目指す。
- ・学生派遣について、短期研修で300名、半年留学（国際教養学部英語特待生留学派遣を含む）で50名、長期留学で30名を目指す。
- ・既存の短期海外研修プログラム（語学研修・ボランティアプログラム・体験学習プログラム）に加え、新たなボランティアプログラムまたは、体験学習プログラムを設置する。
- ・ペルー・ジャ国際マラソン交流に加え、新たな種目でのスポーツ国際交流の拡大を模索する。
- ・中国広州を中心とする華南地域において、30名を定員とした中国フィールドワークを実施する。
- ・中国深圳において、4名を定員とした中国インターンシップを実施する。

(4) 就職関係

- ・将来を見据えたキャリアプランをデザインできるようにプログラムを企画・実施し、卒業後も自分らしく生きていけるようにキャリア形成支援を行っていく。
- ・入学時から、キャリア関連相談、キャリア関係の正課教育プログラム開発・実施、ガイダンスならびに各種関係プログラムの実施などを行う。

(5) 入試関係

- ・前年度に引き続き、入試広報の効率的な活動を目指し、様々な面で工夫を凝らした活動を実施する。具体的には、キャンパス見学会において、各回毎にテーマを設定し、開催日ごとに異なる企画で実施する。また、重点エリアに対して目的を絞った広報戦略を展開する。
- ・入試委員会・入試課内に4つのプロジェクトチーム（法学部志願者獲得、AO入試改革、編転入改革、国際教養学部フォローアップ）を設け、特に力点を置いた広報活動を行う。学校訪問や学外説明会についても例年どおり行い、本学の教育活動等を受験生や保護者等に対して積極的にアピールする。

(6) 広報関係

- ・前年度に引き続き、「就職徹底支援主義」を謳い、新聞、雑誌、交通広告等により受験生および広く社会一般に対しての広報活動を実施する。
- ・大学広報誌アンデレクロスおよびホームページの充実を図り、学生を始め学内構成員に対して広く情報公開を行うことで、学内構成員からの情報発信を図る。
- ・ホームページの充実を第一に、新聞・雑誌・交通広告・講演会・シンポジウム実施等により、本学の教学内容を中心とした総合的な広報活動を展開する。

(7) 研究・情報関係

- ・2007年度に固定料金制に移行した「日経テレコン21」の広報に努め利用を促進する。
- ・学生の図書館利用を活発にすること、読解力および表現力の向上を目指した「桃山学院大学図書館書評賞（第3回）」を実施する。
- ・教職員の協力体制を通じて、電子情報を含んだ図書資料の収集、充実を図る。
- ・2008年度に順次稼働する教務系オープン事務システムについて、稼働準備および安定運用を行う。また、既に稼働した法人系オープン事務システムについても安定運用を行う。
- ・2007年度に引き続き、大・中教室の改修を行い、マルチメディア機器を設置する。また、その他の視聴覚機器についても整備を行う。
- ・2005年度・2006年度に更新した教育研究用システム(SAINTIV)について、安定運用を行う。

(8) その他の業務関係

- ・南大阪地域大学コンソーシアムにて本学が主担当で他大学と共同し、2008年度文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に申請を予定するなど他大学との連携を図る。
- ・本学が南大阪を中心とした地域づくりに関して、「南大阪再生プロジェクト」や「地域学校教育支援」におけるボランティアやスポーツ等への学生を中心とする様々な活動を通して、地域貢献・連携の強化につとめる。
- ・2007年4月に大学基準協会に認証評価を申請し、大学基準に適合しているとの認定を受けた。評価結果には長所として特記すべき事項とともに改善を要する点も指摘され、特に「助言」に関しては改善に向け真摯に取り組む。
- ・教育活動の質的向上・発展を担う「全学FD推進委員会」を設置するなど学内改革の推進を図る。

- ・温室ガス抑制策として、様々な省エネに係わる活動の推進、環境省のクールビズ賛同団体として、夏期休暇期間にクールビズの実施、冷暖房の温度設定（原則として、暖房設定温度20℃、冷房設定温度28℃）、和泉キャンパス屋外におけるゴミ分別回収の統一デザイン分別ゴミ箱設置、「リユース・リサイクル市」の実施等、環境への配慮を行う。【環境委員会】
- ・キリスト教講演会、チャペルアワー、フラワートーキング、ジョイント・レクチャーズ、建学の精神講話等の講演会、国際ワークキャンプ（インドネシア）、チャペルコンサート、パイプオルガン講習会・発表会、バイブル・ガーデン（聖書の花園）の整備・充実等を実施する。【キリスト教センター】
- ・学生一人一人のボランティア活動をサポートするため、各種ボランティア団体（NPO／NGO）の活動を紹介し、また個別の相談に対応する。学生のボランティア登録等の推進、学生スタッフの募集と育成、学生ボランティア団体のとりまとめと育成にあたる。国際協力や交流、地域の問題に関するイベントや講演会、ボランティアサークルの運営に関するセミナー等を実施する。【ボランティアビューロー】
- ・在籍学生に対する各種資格・技能講座として各種既存講座の充実・語学講座の充実・ベンチャービジネスプラン作成講座およびコンテスト・法学部関連講座を実施する。また、司書講習の実施では例年の受講者数の確保に努める。さらに、社会人聴講生制度は開講当初からの「学生と共に学ぶ」を基本としながら、センターの体制と調整を図り、更なる拡大・充実を進める。【エクステンション・センター】
- ・教育後援会活動を円滑に遂行させ活性化を進める。
- ・資料・カード送付などにより、卒業生（同窓生）との関係構築を進める。
- ・大学の将来に対して理解・協力を得るため、大学の現状を見ていただくホームカミングデーを実施する。

3. 高等学校

〔重点目標〕

- (1) 募集定員520名の確保と志願者偏差値の向上
- (2) 新体育館の建設を含む昭和町キャンパスの整備
- (3) 進学実績の向上および高大連携の推進
- (4) 女子生徒の受け入れの取り組み
- (5) アスリートクラスの充実を含むスポーツの振興
- (6) 高等学校教育改革の推進と自習ステージ会場確保

〔事業計画〕

(1) 教学関係

1. 2007年度より掲げた高校改革がスムーズに運営できるよう努める。
2. 2007年度に設置したコース・クラスがより特色あるものになるよう検討を重ねる。
3. 高大連携の充実を図る。

(2) 課外活動関係

1. 全国大会・近畿大会への出場クラブの増加を目指す。
2. アスリートクラス指定クラブがスムーズに運営できるよう努める。
3. 体育祭・文化祭を成功させる。
4. 第二体育館工事期間中の活動施設の確保に努める。
5. 命の教育プログラムを推進する。

(3) 国際交流関係

1. 交換留学（E P）制度を継続する。
2. 社会貢献事業「スクールバイスクール」を推進する。

(4) 進路関係

1. 桃山学院大学への内部推薦入学の増加を目指す。
2. 2008年度大学入試の合格実績を上回ることを目指す。
3. 国公立大学・関西4私大で、3桁の合格者を目指す。

(5) 入試関係

1. 高校入試のシステムの精度をさらに高め、入学難易度を高める。

(6) 広報関係

1. 塾を対象とした入試説明会を効率よく積極的に実施し、高校入学志願者数を確保する。
2. 受験生・保護者に対して効率のよい広報媒体・方法・タイミングの検討を行い、広報効果を高める。
3. ホームページの充実を図る。
4. 保護者に対して、メールを使った緊急連絡網を整備し、タイムリーな情報を提供する。

(7) 施設・設備関係

1. 第二体育館の建設にあたり将来に向け合理的な設備配置を検討する。
2. 防犯システムを導入し、生徒の安全管理を行う。

4. 中学校

桃山学院中学校（男女共学・中高一貫教育）を2008年4月に開校する。この中学校は既設の桃山学院高等学校を基軸とする中高一貫型のものであり、6年間の一貫教育を通して、難関国公立・私立大学および海外への大学進学を目指す学力を養成する。

〔重点目標〕

- (1) 本校の教育方針に見合う生徒120名の確保
- (2) 志願者数360名以上の確保
- (3) 中学校開校後の諸問題解決
- (4) 中学校運営組織の確立
- (5) 生徒の安全確保システムの確立

〔事業計画〕

- (1) 教学関係
 1. 中学校開校後の具体的な項目について検討を行う。
- (2) 入試関係
 1. 中学校の入試制度を充実させ、より多くの受験生を確保する。
- (3) 広報関係
 1. 塾を対象とした入試説明会を効率よく積極的に実施し、中学入学志願者数を確保する。
 2. 受験生・保護者に対して効率のよい広報媒体・方法・タイミングの検討を行い、広報効果を高める。
 3. ホームページの充実を図る。
 4. 保護者に対して、メールを使った緊急連絡網を整備し、タイムリーな情報を提供する。
- (4) 施設・設備関係
 1. 聖マルコ館（中学校棟）に合理的な設備を配置する。
 2. 聖マルコ館（中学校棟）完成後の環境整備計画を行う。